

令和 4年 5月 13日

東員町議会 全員協議会

議長 三宅耕三 様

東員町議会 全員協議会

委員(議員) 片松雅弘 ㊟

## 研 修 報 告 書

研修期間	<u>令和 4年 5月 10日 (火)</u> ～ <u>5月 11日 (水)</u> 【 2日間】
研修(視察)先	茨城県 日立(常陸)市
目的(テーマ等)	鉄道に代わる公共交通システムについて
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

〔委員（議員）氏名： 片 松 雅 弘 〕

研修概要、内容、所感

令和4年度の全員協議会で、新交通事業導入されている茨城県日立市に視察研修に行きました。新しいまちづくりへの第一歩として、いち早くBRTを導入されています。

BRTとはBUS・RAPID・TORANSIT バス・高速・交通機関の略で、鉄道跡地に舗装などを行い専用の走行空間を作り、定時性・高速性を確保しつつも柔軟な運行ルートで安価な整備や維持管理ができるメリットのある交通システムです。

日立電鉄が、平成17年に廃線になり、20年8月に日立電鉄（株）から寄付により鉄道跡地を取得して平成21年3月に「日立電鉄線跡地活用整備基本構想」を策定し、平成23年1月に「新交通導入計画」を策定しています。

線路を取り除き、舗装や整備を行い専用の走行空間を作り、バスを運行しています。鉄道に比べ維持管理経費も安価になり、柔軟なルート設定も可能になります。

一部の駅周辺だけではなく、バス停も柔軟に増やせるので沿線地域のまちづくりも促進でき商業施設のみならず、住宅誘致なども広範囲にできると思います。

一般道も走行できるので、地域交通としても細かく地域に入ることもでき、今後さらに増える運転免許証返納者への交通手段の手助けにもなります。

また、専用の走行空間を利用することから一般道路に比べて「自動運転」を現実的に導入しやすいと思います。

地域交通は、通勤通学や生活基盤を支える大切な足ですが、私たちの住む地域交通の三岐鉄道北勢線は赤字が続き自治体で補助・支援を行っています。

10年間支援を行い、その後は自主運営を行う協定書を交わしています

しかし、平成15年度から三岐鉄道への支援が2市1町の桑名市・東員町・いなべ市の合計が55億円を超え、本年度からの令和4年度から6年度の3年度も支援が決まっています。人口割や区間などで負担額は計算されていますが、負担額も増え続け、4年度からの東員町の負担額は、年間6000万円強になります。2市1町の年間支援額は2億3千万になります。

令和6年度にはICカード対応の改札口への対応などでさらに負担増となっています。

岐鉄道の赤字解消のラインの指標は現在の2倍の運賃にしなければ赤字解消できないとの返答があったと聞いています。

このまま恒久的に補助を出し続けることが果たしてよいものなのか、議論していく時期に来ていると思います。

三岐鉄道北勢線は通勤通学の生活の鉄道です。沿線自治体もお互い協力し合い、一丸となってアピールの必要があると思いますが、今までの流れを見ていると、沿線市町からの補助がある限り、三岐鉄道北勢線は赤字解消できないのではないかと感じます

3市町での今後の進め方の議論が当然必要ですが、私たち議員も3市町の議員間でも共通の問題として協議していきたいと思います。

2日間の研修は全員協議会で議論でき、とても有意義でした。